

北里大学理学部同窓会報

2019年 第22号



2018年度 定期総会集合写真

● CONTENTS ●

会長挨拶……………	P 2	同期会報告……………	P 12
教授就任のご挨拶……………	P 3	集会援助手続について……………	P 12
2018年度理学部同窓会定期総会報告……………	P 4	生体機能学研究室同窓会……………	P 13
法人統合10周年記念式典開催……………	P 6	物性物理学講座同窓会……………	P 13
卒業研究功労賞……………	P 6	理学部事務室より……………	P 14
就職ガイダンス……………	P 7	2020年度理学部入学試験日程（予定）……………	P 15
近況報告バトンタッチ……………	P 8	就職センター／同窓会からのお願い……………	P 16

理学部同窓会ホームページ：
<https://kitasato-rigaku-d.jp> または <https://北里大学理学部同窓会.jp>



「理学部が創立25周年を迎えるにあたり」

理学部同窓会会長 沼上 清彦
(HC6)

会員の皆さまには、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

2018年度の定期総会におきまして、理学部の創立25周年記念事業に対応することを意図して会長を再任されました旧衛生学部化学科6期生の沼上です。

理学部卒業生が過半数を超えた現在、事業の見直しを進め、また、役員世代交代を図ることが私の役割であることを掲げてまいりましたが、先の事由をもって不本意ながら、もう一期担当させていただきます次第です。

その理学部の記念事業ですが、前回の会報でお知らせ申しあげましたように理学部と医療衛生学部の合同企画として準備が進められており、現在のところ、2019年4月20日に記念講演会と記念式典それに祝賀会を新横浜プリンスホテルで開催することになっています。また、それぞれの学部ごとに記念誌が発刊されます。

さて、本会は旧北里大学衛生学部の改組に伴い、1994年4月に旧衛生学部同窓会が本会と医療衛生学部同窓会とに組織変更されたもので、2018年4月現在7,758名の会員を有しています。

本会の起源をたどれば、1966年に創設された北里大学同窓会ということになります。北里大学同窓会の設立当初の構成員は、旧衛生学部卒業生だけであったため、旧衛生学部同窓会の起源は、事実上、北里大学同窓会の起源と同一と見なすことができるからです。

ともあれ、本会が諸事業を円滑に進めることができるのは、歴代学部長や事務長をはじめとする理学部のご理解があればこそであり、このたびの創立25周年においては、本会として心ばかりのお礼をさせていただきたく存じております。

ところで、会員諸氏は、北里大学が3つのフィールドから生命科学にアプローチするとしており、理学部はコアとなる「生命科学の基礎的研究を行う分野」を担っていることはご存じだと思います。では、理学部のディプロマ・ポリシーが、①自然科学の基本原則を理解し、これを基盤とした測定・解析技術を身に付け、②基礎知識と実験技術に基づき、自然現象・生命現象に対し正確な判断力を有し、③科学的な知識、思考、判断により社会が直面する問題に取り組む意欲や能力を持つこととしていることについてはいかがでしょうか。

これに基づくカリキュラム・ポリシーや学習目標、加えてこれらを実践する優れた教授陣により、卒業生は北里大学理学部で学んだアドバンテージをもって社会に巣立つことができているわけです。

理学部は25周年という歴史を刻もうとしています。卒業生は22期までで4,201人が輩出されています。できれば後進の教育に関わることができる卒業生が増えることを私たちは切に願っているところでもあります。そのためには、卒業生各位には学術的業績が社会に認められる相応の活動をしていただきたく念じています。

2017年度に北里大学は、北里柴三郎博士の精神に則り、「いのちを尊び、生命の真理を探究し、実学の精神をもって社会に貢献する。」を理念として定めました。この理念は私たち卒業生にとっても、その果たすべき役割や目的、価値観が反映されているものと考えます。私たち一人ひとりがこの北里理念を心にとめて切磋琢磨することで、理学部の発展に少なからず寄与することができるものと思っています。



「教授就任のご挨拶」

物性物理学講座教授 小寺 義男

2018年4月1日付けで物理学科物性物理学講座の教授に就任いたしました小寺義男です。私は、理学部開設と同時に物理学科に助手として着任いたしました。以来25年、同窓会の皆様には大変お世話になりました。まずはこの場をお借りして厚く御礼申し上げます。微力ではございますが、諸先輩方によって築き上げられた理学部を発展的に継続することを目標に精一杯努力する所存です。今後ともご指導、ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

さて、私は昭和40年（1965年）に広島県で生まれました。その後、関西学院大学理学部物理学科に入学し、大学、大学院、日本学術振興会の特別研究員PDを経て北里大学に参りました。昨年度まで所属していた生物物理学講座より物性物理学講座に移って今の職に就いたわけですが、私の研究人生は磁気共鳴法を用いて物性物理学を進められていた河盛阿佐子先生の研究室にてスタートしました。そこで核四重極共鳴法を用いてロッセル塩の静水圧印加に伴う相転移の研究を修士課程1年まで行いました。しかし、その研究が河盛先生にとって最後の物性研究となり、その後、磁気共鳴法を用いて高等植物光化学系Ⅱの構造を解析する生物物理学研究に移行され、私も自然な流れで生物物理分野に入っていきました。そこで、博士課程、特別研究員PDを通じて、当時開発もないパルスESRを用いて、新たな方法の開発と、その方法を用いた光化学系Ⅱの電子伝達系の構造解析を行いました。その後、元生体分子動力学講座（現生物物理学講座）・教授の前田忠計先生に声をかけていただき、上記の通り理学部開設と同時に北里大学に助手として着任し、NMRを用いたタンパク質の立体構造解析の研究を行ってきました。このように、博士課程以来、磁気共鳴法を用いたタンパク質分子とその複合体の機能発現機構の解明を行ってきたわけですが、こうした中で小さなタンパク質（ペプチド）が生体内で様々な機能をもった多機能性分子として働いていることに興味を持つとともに、その真の機能と物性を解明するためには、その分子の置かれている場を理解することが重要であることを強く感じました。また、これと同時に、北里に来て行ったNMRによる構造解析のように、完成した方法を生物の理解に応用するよりもむしろ、大学院時代に行っていたように、まだ見えていない世界を自らの開発した方法で一つずつ明らかにしていくことに面白さを感じる自分に気が付きました。

こうした中、当時の研究室教授・前田忠計先生が、国内に先駆けてプロテオーム（組織や細胞に存在するタンパク質セット、protein + ome（ラテン語全体を意味する））解析の可能性に気づき、文部科学省ミレニアムプロジェクトに参画することが決まり、研究室にタンパク質分析用の質量分析計が導入されました。そこで私はそれまでの磁気共鳴法という武器を質量分析法に持ち換えて、プロテオーム解析の世界に入ることにしました。そこで改めて感じたことは、先人の膨大な研究業績により生命に関する多くの情報が集積されているが、まだまだ見えていない（理解できていない）部分がある以上には多いということでした。このことは、高度なシステムの集合体である生命システムにおいて、従来のある分子を中心に知識と推測をベースに理解を広げていく研究では照らせる範囲が相対的に狭すぎ、それが高度な生命システムの理解に偏りを生じさせていることに対応しているのだと感じました。では、この偏りをどのように解消するか？ そのためには、新たな観点ならびに観測技術による生命の担い手（タンパク質）の包括的な観測（観測ベースのアプローチ）と、そこから得られる多様な情報の中から個々のシステムを生命という全体像の中に落とし込むためのインフォマティクスが必要であると考えています。特に、我々の体において最も重要なネットワーク媒体である血液においては、明らかに重要であるにもかかわらずそのポテンシャルを医学だけでなく生命科学全体において引き出すことができている。これは、血液中の組織や細胞の情報数リットルの血液に薄められていることと、一部の極端に高濃度なタンパク質がその他の情報の取得を邪魔していることに起因しています。このため血液の分析は、組織や臓器、細胞の分析に比べて、観測ベースのアプローチが明らかに遅れています。そこで、私は、血液中のタンパク質・ペプチドのまだ見えていない重要な部分を見ることを目的として、質量分析技術と試料調製技術を組み合わせた独自の分析技術の開発を開始しました。開始して約15年、ようやく当初目的としていた血液一滴からペプチドホルモンを直接検出することが少しずつ可能となりました。このことは、競泳用プールを満たした様々な種子の中から1,000～10,000粒のゴマを取り出し、その中に入っている黒ゴマと白ゴマの数を比較することに匹敵しています。さらに一歩踏み込むことができれば、新たな世界が見えてくるのことに期待しています。

さて、理学部には附属疾患プロテオミクスセンターがあることをご存知で

しょうか。このセンターは2005年に前出の前田忠計先生がプロテオミクス技術を医学・生命科学に応用することを目的として設立されたセンターです。現在、私がセンター長を兼務させていただいており、研究室で開発した方法を基盤に様々な研究グループとの共同研究を進めています。このセンターにおいて、2016年に嬉しいことが2つありました。それは、我々の血液分析技術ならびにその開発力が認められ、日本医療研究開発機構（AMED）のオーダーメイド医療実現プログラムの一環として、医薬基盤・健康・栄養研究所とともに「血清・血漿試料の品質評価マーカーの開発と測定法の確立（2016～2017年度）」に採択されたこと。さらに、文部科学省・先端研究基盤共用促進事業の一つ「臨床質量分析共用プラットフォーム（2016～2020年度）」に横浜市立大学、国立がん研究センター研究所とともに選定されたことです。これによって、本センターは国のプロテオミクスネットワークのハブとして動き始めることができました。

現在、当センターには特任助教1名、医学部の博士課程大学院生（臨床医）4名、研究支援者2名に加えて、学内外の共同研究先の研究者・大学院生が出入りし、私の担当している卒研生3名、大学院生5名（修士3名、博士2名）とともに研究を進めています。ともするとこのような研究センターは、医学・生物学の研究者の依頼分析を行う分析センターになりがちですが、それでは全く面白くありません。だからこそ世界のトップを目指した新たな技術、アプローチ方法を継続的に打ち出す気持ちを常に持ち、共同研究者の最先端研究と合わせることで世界と戦う、そのような研究センターでありたいと考えています。今後は当初目的としていた分子とその置かれた場の理解と、各分子の機能状態に着目したより独自性の高い技術を基盤にしたタンパク質物性の研究を精力的に進めていく所存です。

さて、ここまで研究について記載しましたが、理学部において最も重要なことは、やる気のある学生を迎え入れ、研究の実践を通して身に着けた知識とそれをもとにした洞察力をもった学生を社会に送り出すことです。現在、私は年間実働約130コマの授業・実習とともに広報委員として物理学科の紹介リーフレットの作成、模擬授業、進学ガイダンスへの出席、オープンキャンパスでの企画等を物理学科の皆さんと進めています。その中で高校生・ご父兄に「生徒と先生の距離が近い」ことを理学部の特徴として紹介しています。このことは、北里大学ならびに理学部の非常に大きな特徴であり、良いことであると考えていますが、時々、「この特徴はどこから生まれているのであろう？」と考えるようになりました。そして25年をこの北里で過ごし、現在感じていることは、おそらくこれは、衛生学部時代から作り上げられたものであり、学生・職員・教員、それぞれの先輩から後輩に引き継がれてきたとても素晴らしい伝統なのではないか、という考えに至りました。こうした学生と教員が自由に話し、議論できる雰囲気、理学系における大学院進学率私学トップという素晴らしい成果につながっているのではないかと考えています。

さて、25年前に北里で初めて開設された物理学科ですが、やはり生命科学の総合大学である北里においては、物理というイメージは伝わりにくい部分があり、生物科学科、化学科に比べて知名度が低いことは否めない状態でした。しかし、諸先輩方の継続的な努力に加えて大村先生のノーベル賞受賞という追い風もあり、少しずつ認知されてきているのではないかと期待しています。また、毎年の学祭にてL1号館の1室を借りて物理学科主催の企画「サイエンスラボラトリー」を継続的に開催しており、こうした企画も物理学科の認知度アップにつながっていると信じています。この企画は、学祭に来られるあらゆる年代の方に物理の面白さを体験していただくことを目的として、毎年異なる物理現象をテーマにした約20分の講義（1日3回）と、おもしろ科学体験コーナー（約15種類の物理おもちゃを手にとって、教員、アシスタント学生と遊んでいただく）からなるもので、一昨年は2日間で約370名、昨年は約450名の来場者を迎えることができ、学祭で1、2を争う名物企画となりつつあります。連日物理学科教員の約半数と教職履修学部生・大学院生8名で皆さんをお待ちしております。年々卒業生の来場も増えており、物理学科の知名度アップとホームカミングの場として今後も継続していきたいと考えていますので、是非、同窓生の皆様にもお越しいただければ幸いです。詳細は物理スペシャルホームページ「宇宙から生命へ」をご覧ください。

以上、とりとめの話となりましたが、今後とも近い距離で学生と語り、議論することによって、物理的な視点を基盤に科学の多様性と奥深さを謙虚に受けとめ、考えることの喜びをもった4年生、大学院生を一人でも多く社会に送り出したいと考えております。どうぞよろしくお願い申し上げます。



2018年度理学部同窓会定期総会報告



2018年度理学部同窓会定期総会が5月19日(土)、13時から相模原キャンパスS号館(理学部校舎)3階 セミナー室に於いて開催されました。終了後、真崎学部長、川崎物理学科長、石川化学科長、木村生物科学科長・就職指導委員長にご出席を頂き、学部、各学科および就職関係の近況説明が行われました。その後、臨床教育研究棟(IPE棟)1階 フードコートに於いて懇親会を行いました。

平成29年度の事業報告および収支決算について一括審議の結果、賛成多数で原案通り承認された。

平成29年度収支決算書

自平成29年4月1日 至平成30年3月31日

費目	① 予算	② 決算	増減(②-①)
学部還元金	5,166,000	5,166,000	0
年会費	300,000	310,000	10,000
会報送料補助	394,000	394,000	0
利子	2,000	681	△ 1,319
前年度事業資金	0	0	0
雑収入	0	30,000	30,000
積立金戻入	0	0	0
前年度繰越金	1,330,686	1,330,686	0
合計	7,192,686	7,231,367	38,681

出席者: 48名 (第2号議案の+2名および第6号議案の-2名を含む); 長原勝彦(HC1)、坂口洋(HC2)、櫻井典子(HC2)、竹澤美男(HC4)、中野勝雄(HC5)、小沼和久(HC6)、沼上清彦(HC6)、石原裕三(HC7)、麻生綱男(HC8)、國香清(HC11)、島崎道広(HC12)、藤本玲子(HC12)、氏家重夫(HC12)、内田宏(HC14)、雨宮純子(HC14)、森孝之(HC14)、須貝昭彦(HC18)、田所順一(HC19)、八井田文子(HC19)、甲斐恒人(HC20)、鈴木芳弘(HC21)、木村武俊(HB1)、佐藤康之(HC28)、千葉貴子(HC28)、渡辺知広(HC30)、秋本護(HB4)、前川敏郎(HB4)、平井正美(HC31)、村上裕章(HC31)、福山勝也(HC31)、石原稔(HC32)、酒井利奈(SP1)、桑原美保子(SP1)、藤井祐介(SC4)、田村啓(SB4)、三浦慎一郎(SB5)、松本俊英(SP8)、荒木恒平(SC9)、今村敦(SP10)、齋藤昂良(SB10)、菅谷大地(SB10)、小林宣文(SP11)、曾根靖人(SC11)、上村和豊(SB13)、逸見拓谷(SC17)、小田本美佳(SB17)、沖山悠太(SC19)、池谷侑紀(SP20)

委任状提出: 57名 (第1号議案の+3名を含む); 小池惇平(HC1)、西尾公男(HC3)、石川一郎(HC9)、石水と夫(HC10)、蓮沼良一(HC11)、衣川佳美(HC13)、伏見尚登(HC16)、山田淳(HC17)、飯島宏(HC20)、小泉博之(HC22)、山下宣行(HC23)、椎名文乃(HC24)、小笠原正勝(H25)、櫛部一彦(HC26)、竹尾文彦(HC26)、長谷部浩司(HC27)、伊藤昌史(HB1)、坂内健志(HB2)、吉田奈美(HC29)、嶋宮民安(HB3)、矢口晶(HB4)、篠川裕子(HB5)、井村幸介(HB6)、中條総子(SC1)、吉瀬晴子(SB1)、江島史緒(SB2)、中野章代(SC3)、小林麻衣(SP4)、吉本真紀子(SB4)、田辺由美子(SC5)、國廣喜央司(SP6)、東海林周平(SC6)、佐々木千明(SB6)、大滝正訓(SP7)、千ヶ崎裕介(SC7)、吉野成嗣(SB7)、小野憲司(SP8)、森口友敬(SB8)、田草川昇昇(SP9)、江澤絵真(SB9)、露木早紀(SB11)、奥田悠介(SP12)、石毛達也(SB12)、高壽美文(SP13)、厚木将志(SC13)、新山勇人(SB14)、杉本愛(SP15)、千葉慧(SB15)、藤川圭太(SB16)、山神廉弥(SP18)、三田一帆(SB18)、松本慧一(SP19)、吉成英里佳(SC20)、椋原里奈(SB20)、橋内凌汰(SP21)、立石智美(SC21)、酒井皓平(SB21)

欠席者: 20名; 星名達行(HC15)、立松佐吉(HC18)、平山幸司(SP2)、河合匡(SC2)、山本あゆみ(SP3)、矢野太一(SC3)、小林琢也(SB3)、大西新(SP5)、武者孔佑(SP7)、鈴木健太郎(SC8)、富澤良弘(SC10)、上村勇介(SC12)、保住厚兵(SP14)、神田章宏(SC14)、田中雅史(SC15)、南川晴紀(SP16)、川崎貴之(SC16)、長谷川祐紀(SP17)、新美恭(SC18)、梅川恵美(SB19) ※太字は住所不明(2名)

<第6号議案終了後、総会構成員数は125名から123名>

1. 開会の挨拶

司会の松本理事(SP8)から、規約第15条第2項に規定する総会構成員数(報告事項まで)120名に対して1/3以上が出席し、所定の定足数に達した旨が述べられ、定期総会の成立することが報告され、開会が宣言された。

2. 議長団の選出

執行部から、議長に三浦代議員(SB5)、副議長に甲斐理事(HC20)、議事録署名人に菅谷代議員(SB10)、木村理事(HB1)が提案され、全会一致で承認された。

3. 沼上同窓会長挨拶

沼上会長(HC6)から、はじめに出席者へ日頃の同窓会活動への理解と協力に対する謝辞が述べられた。続いて理学部の卒業生は21期目を迎え、7,749名の同窓生数となったこと、来年の2019年度には理学部と医療衛生学部が創立25周年を迎えるため、医療衛生学部同窓会と共同で両学部の合同記念事業を支援したいこと、更に会員間の親睦を図り、母校の発展に寄与していきたい旨の挨拶があった。

4. 報告および決議事項

★報告事項

- 平成29年度事業報告および平成29年度収支決算報告の件
千葉事業担当副会長(HC28)から平成29年度事業報告を、また須貝財務担当副会長(HC18)から平成29年度収支決算書(下記資料参照)について説明があった。
- 監査報告の件
櫻井監事(HC2)から、平成29年度の会計および事業執行について、村上監事(HC31)と監査した結果、正確かつ妥当であった旨の報告があった。

分類	大項目	中項目	① 予算	② 決算	増減(②-①)
運営費	会議費	総会費		877,620	
		理事会費	1,650,000	445,186	1,401,826
		委員会費		79,020	
	事務局費	事務人件費		1,192,406	
通信費		1,730,000	43,715	1,327,961	
物件費			84,415		
雑費			7,425		
渉外費	慶弔費	300,000	15,400	77,053	
	交際費		61,653		
事業費	集会援助費		200,000	98,000	△ 102,000
	会報発行		1,350,000	1,107,678	△ 242,322
	就職ガイダンス		600,000	911,458	311,458
	教職員との懇談会	懇談会費	250,000	204,813	△ 45,187
	学部への寄贈品	図書	100,000	99,856	
		物品	0	99,856	△ 144
	講演会協力費	担当手当	100,000	53,820	△ 46,180
	卒業研究功労賞		240,000	240,000	0
	カミングホーム		0	0	0
	学生会員支援	卒業祝賀会協賛金	150,000	113,640	△ 36,360
	ホームページ	プロバイダー費	50,000	44,547	△ 5,453
	kitasato100×50	寄付	0	0	0
	積立金		0	0	0
	次年度用事業資金		250,000	250,000	0
予備費		222,686	0	△ 222,686	
合計		7,192,686	5,930,652	△ 1,262,034	
次年度繰越金					1,300,715

貸借対照表

平成30年3月31日現在

(単位:円)

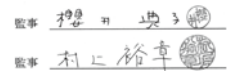
資産の部		負債の部	
科目	金額	科目	金額
現金	94,205	前期積立金	12,670,638
郵便貯金	552,225	次年度繰越金	1,300,715
普通預金	6,225,097	次年度用事業資金	250,000
事務局用普通預金	246,330		
定期預金	7,103,496		
合計	14,221,353	合計	14,221,353

平成29年度監査報告

北里大学理学部同窓会規約第9条第4号の規程に基づき、平成29年(自・平成29年4月1日 至・平成30年3月31日)の会計並びに事業の執行を監査した結果、正確かつ妥当であることを認めます。

平成30年4月8日

北里大学理学部同窓会



★決議事項

第1号議案 新代議員選任(3名)の件

執行部から、学部から推薦があった新代議員3名[橋内凌汰氏(SP21)、立石智美氏(SC21)および酒井皓平氏(SB21)]の提案があり、審議の上、選任された。

第2号議案 交代代議員選任(2名)の件

執行部から、森(HC14)、福山(HC31)両代議員を役員候補者とすることに伴う交代代議員の提案があり、審議の上、選任された。

交代代議員候補者

森 孝之(HC14) → 雨宮純子(HC14)

福山勝也(HC31) → 平井正美(HC31)

第3号議案 継続代議員選任（再任）の件

執行部から、継続代議員選任（再任）について提案があり、審議の上、選任された。

第4号議案 2018年度事業計画案の件

千葉事業担当副会長から2018年度事業計画案について説明が行われた。

第5号議案 2018年度予算案の件

須貝財務担当副会長から2018年度予算案に沿って説明が行われた。

第4号議案と第5号議案について、一括審議の結果、原案通り賛成多数で承認された（2018年度事業計画および収支予算は下記資料参照）。

2018年度事業計画

1 会報の発行

同窓会報第22号（通算48号）を2019年1月に発行する。

2 学部教職員との懇談会の開催

学部教職員との懇談会を2018年7月7日（土）に開催する。

3 会員集会援助の継続

同窓生が同期会等を開催する際、200名までは1名あたり200円を、201名以上は1名あたり100円を援助する。ただし、同一趣旨の会への援助は年1回までとする。

4 ホームページの運用

1) 新しい情報を会員へ提供するため、ホームページを随時更新する。昨年度同様、集会援助申請が承認された時点でホームページ上に開催期日等の開示を基本とし、集会援助を利用しない場合でも掲載希望があれば承認後、開示する。

2) SNSでの情報提供に関して引き続き検討する。

5 会員情報の管理

本会の個人情報保護方針に即して、北里大学同窓会と連携しながら会員情報を管理・運営する。なお、会員集会援助に伴うDM用タックシールおよび当該名簿一覧表は継続的に提供する。

6 第24回就職ガイダンスの開催（2018年度理学部就職ガイダンス共催）

2018年10月に理学部3年生、修士課程1年生および博士課程2年生を対象とした就職ガイダンスを理学部と共催する。

7 北里大学同窓会公開講演会への協力

第56回北里大学同窓会公開講演会（看護学部同窓会担当）に協力する。

8 学部への寄贈

寄贈図書：10万円相当の学生（準会員）利用図書を学部図書館へ寄贈する。

9 第13回「卒業研究功労賞」の表彰

卒業研究において学生の取りまとめ等、秀でた活動を行った学生に対して卒業研究功労賞を授与する。

10 準会員事業への協力（卒業記念パーティー）

卒業記念パーティーに祝い金を持参する。

11 理学部創立25周年記念事業への協力

2019年開催予定の理学部創立25周年記念事業に協力する。

12 理学部若手教員学術集会への支援（新規）

理学部若手教員の学術集会へ支援をする。

13 その他

2018年度収支予算

2018年4月1日 至2019年3月31日

収入の部

(単位：円)

費 目	① 2018年度	② 平成29年度	増 減 (①-②)
学 部 還 元 金	5,557,000	5,166,000	391,000
年 会 費	300,000	300,000	0
会 報 送 料 補 助	404,000	394,000	10,000
利 子	1,000	2,000	△ 1,000
前年度事業資金	250,000	0	250,000
雑 収 入	0	0	0
積 立 金 戻 入	0	0	0
前年度繰越金	1,300,715	1,330,686	△ 29,971
合 計	7,812,715	7,192,686	620,029

支出の部

(単位：円)

分 類	費 目	① 2018年度		② 平成29年度		増 減 (①-②)
		2018年度	2018年度	平成29年度	平成29年度	
運 営 費	会 議 費	総 会 費	1,000,000	1,650,000	1,650,000	0
		理 事 会 費	550,000			
		委 員 会 費	100,000			
	事 務 局 費	事 務 人 件 費	1,350,000	1,730,000	1,730,000	0
		通 信 費	50,000			
		物 件 費	300,000			
雑 費		30,000				
渉 外 費	慶 弔 費	200,000	300,000	300,000	0	
	交 際 費	100,000				
事 業 費	集 会 援 助 費		200,000	200,000	0	
	会 報 発 行		1,350,000	1,350,000	0	
	就 職 ガ イ ダ ン ス		800,000	600,000	200,000	
	教 職 員 と の 懇 談 会		250,000	250,000	0	
	学 部 へ の 寄 贈 品	100,000		100,000	0	
	講 演 会 費		100,000	100,000	0	
	学 術 集 会 補 助		50,000	0	50,000	
	卒 業 研 究 功 労 賞		240,000	240,000	0	
	ホ ー ム ペ ー ジ		50,000	50,000	0	
	カ ミ ン グ ホ ー ム		0	0	0	
	準 会 員 支 援	卒業祝賀会協賛金	150,000	150,000	0	
	積 立 金		300,000	0	300,000	
	次 年 度 用 事 業 資 金		250,000	250,000	0	
予 備 費		292,715	222,686	70,029		
合 計		7,812,715	7,192,686	620,029		

第6号議案 役員選任の件

執行部から、第9期役員〔2018年から2020年度期〕の推薦説明が行われ、審議の上、選任された。

第7号議案 名誉会長選任の件

同窓会規約第6条に基づき、執行部から、櫻井典子監事（初代理学部同窓会長）の名誉会長への推薦説明があり、審議の上、選任された。

第8号議案 その他

沼上会長から、2019年度の理学部創立25周年事業が、2019年度定期総会前、すなわち予算成立前に開催されることになった場合は、当該事業への祝い金（200～300万円）を総会で事後承認を得る形で、前倒し執行したい旨の説明が行われ、活発な意見交換の後、賛成多数で承認された。

議長団の解任および閉会の辞

司会の松本理事から、議事の終了が宣言され、議長団が解任された後、閉会を宣言した。

総会閉会后、学部説明会には真崎学部長、川崎物理学科長、石川化学科長および木村生物科学科長・就職指導委員長が出席され、学部事務から「理学部説明会の資料」と「理学部パンフレット」などが総会出席者に配付され、理学部説明会資料を基に学部・各学科・就職関係などの近況報告を頂いた。

その後、理学部校舎前にて出席者全員で記念撮影を行い、臨床教育研究棟（IPE棟）1階 フードコートに於いて、先生方を交えて懇親会を開催し、交流を深めた。

代議員住所不明者に関するお願い！

本会代議員の河合 匡（SC2）氏、田中雅史（SC15）氏が住所不明です。ご存知の同期会員の方がおられましたら、本人に連絡後、本人から同窓会事務局まで連絡をお願いします。

お知らせ！

- 7月7日（土）に開催された2018年度「理学部教職員と理学部同窓会の懇談会」に於いて、真崎学部長から「理学部・医療衛生学部創立25周年記念式典・合同祝賀会（案）」について、開催日が2019年4月20日（土）に決定されたことなどの概要説明が行われた。2019年度定期総会前となり、2018年度定期総会第8号議案で承認された「当該予算の前倒し執行」が行われることとなります。
- 2019年度定期総会は、相模原で5月18日（土）に開催予定です。

2019年度 年会費納入のお願い

本会活動のより活発な活動の為に
2019年度会費の納入をお願いします。

年会費：3,000円

納入方法：

- 他の金融機関から「ゆうちょ銀行」に振り込む場合：
 - 銀行名 ゆうちょ銀行 ■金融機関コード 9900
 - 店番 029 ■預金種目 当座
 - 店名 ○二九店（ゼロニキユウ店） ■口座番号 0060155
- 郵便振替の場合：
 - 口座番号：00260-9-60155 ■加入者番号：北里大学理学部同窓会

★お知らせ★

本会会員同士で結婚されている場合の年会費は、お二人で1名分になります。年会費納入時に振込用紙の通信欄にご夫婦である旨と、氏名および卒業年、学科を必ず記入して下さい。

法人統合10周年記念式典開催

本年は、学校法人北里学園と社団法人北里研究所が2008年に統合してから10周年にあたる。これを記念して、「法人統合10周年記念式典」が11月24日13時から白金キャンパスの大村記念ホールで開催された。はじめに学校法人北里研究所理事長の小林弘祐先生から主催者挨拶があり、続いて、来賓として臨

席された元社団法人北里研究所理事・所長の太村智先生、元学校法人北里学園理事長・北里大学学長の柴忠義先生、そして北里家を代表して北里一郎先生が祝辞を述べられた。なお、本会からは、評議員である沼上会長および千葉理事、北里柴三郎記念会会員として島崎理事が出席した。



卒業研究功労賞

2018年3月23日（金）、日本橋のロイヤルパークホテルにおいて北里大学理学部卒業パーティーが開催され、本会会長より第12回卒業研究功労賞の表彰が行われました。

『振り返って気付いたこと』

SB21 瀧野賢太郎

研究室配属の瞬間から2年近くが経過しようとしています。この2年間で振り返ると様々な知識に触れ、経験し、非常に密度の濃い時間でした。納得するまで研究に時間を割ける学生生活から一転、社会人という管理された時間内に精一杯の成果を求める状況に身を置いたことで、気付いたことがあります。

私は卒業研究に本腰を入れるタイミングが遅かったこともあり、10月以降は10時間以上研究室で作業することが何度もありました。時間を存分に使うことが出来、且つ先生や先輩の的確な指導もあって、卒業研究では満足する成果が発表出来ました。社会人となった現在、成果はもとより期限をより重視します。今振り返れば、期限をより明確に定めて研究を行うべきだったと反省しています。

しかし、学生時代に後悔ばかりではありません。解析を進める際に、順序立てて考えながら行動した経験は非常に役立っています。現在はそこに時間管理も意識して仕事をしています。

現在はIT企業でセキュリティ分野に携わっています。大学で得た知識とは一見関係無い分野ですが、遺伝子の相同性に似た考え方をするなど興味深い分野です。10年後に振り返った際に、分子生物学講座で卒業研究した経験が生きた、と何かに気付けるよう、これから様々な経験を積みたいです。



就職ガイダンス

2018年10月24日（水）、L1号館41講義室において、理学部3年生、修士課程1年生、博士課程2年生を対象とした第24回就職ガイダンスが初めて平日に開催され、講演と集団模擬面接が行われました。

就活支援講演

「企業紹介と就職活動を迎える皆さんへのメッセージ」

株式会社ヤクルト本社 上村和豊氏（SB13）

集団模擬面接、講評

HRBC株式会社 茅田素子氏

本会理 千葉貴子氏（HC28）

『模擬面接を体験して』

SB3 木齊 弾

今回、模擬面接に参加を予定していた友人が参加できなくなり彼の代わりに参加することとなりました。進路指導委員長からお話をいただいたとき、良い機会だと思いその場で参加を決めました。

私は夏のインターンシップなどでエントリーシートを書いていたので、書く内容については戸惑うことはありませんでしたが、講評でのご指摘で、項目ごとに共通性がなくまとまりのないエントリーシートだということが分かりました。また面接では、緊張と準備不足から面接官の質問に的確に答えることが出来ず、自分を表現しきれていないとのご指摘をいただきました。

模擬面接実施後の講評では面接における企業様側の視点や、

一貫性のある文章の書き方など、多くのことを指導していただきました。面接やエントリーシートのフィードバックをいただける機会はほとんどないので、貴重な経験となりました。

今回の経験を生かして、これからの就職活動に活かしていきたいと思います。このような機会を与えて下さり、本当にありがとうございました。



右から2番目：木齊さん

『模擬面接に参加して』

MB1 濱田あかり

模擬面接のお話を頂いた時、まだほとんど就職活動に取り組んでいなかったのですが、今回模擬面接に参加させていただいたことで就職活動を始めるきっかけを作っていただくことができたと感じています。

このような面接を初めて経験し、特に多くの人に見られていたことでとても緊張してしまい自分が納得できる受け答えをすることができませんでした。自分なりに準備はしていたつもりでしたが、面接官に突っ込まれた質問をされてしまうとスムーズに答えられなかったり、自分の話がまとまらなくなってしまったりと苦戦しました。模擬面接終了後のフィードバックで自分がこれからどこを重点的に強化していくべきなのか、またどのように話せば効果的であるかを教えていただき大変勉強に

なりました。

また今回面接官の方にフィードバックをいただき、就職活動についてお話してきたことでこれから本格的に始まる就職活動のモチベーション向上にもつながったと考えています。

今回の経験をこれから始まる就職活動に生かして頑張りたいと思います。このような貴重な機会を与えていただき、本当にありがとうございました。



右：濱田さん・中：浦さん

『模擬面接に参加して』

MB1 浦 太暉

今回の模擬面接は就職活動を控える私にとって良い経験となり、また得るものが多かったです。私自身、今までインターンシップに参加する際に企業の面接を受けたことはありますが、今まで納得のいく面接はできていませんでした。そして自分の面接のどの部分を改善すればいいのか具体的にわかっていませんでした。しかし、今回の就活ガイダンスで模擬面接をさせていただくことで、プロの方から直接エントリーシートや面接に対するフィードバックをいただき、自分のエントリーシートや

面接の良い点、悪い点を明確にすることができました。また、他者の面接を見ることで客観的に自分との違いを知り、自分にも取り入れたほうが良い事などが明らかとなって、勉強になりました。この経験を通じて自身の強みや弱みを知ることができ、就職活動に対して意識を前向きにすることができました。これから秋冬インターンシップや企業セミナーなど就職活動が本格的に始まってきます。10月後半というこの時期にエントリーシートや面接に対してアドバイスをいただけたことは自分にとってとてもプラスでした。就職ガイダンスで得た様々なことを活かして今後の就職活動を迎え、自分の納得のいく企業の内定を勝ち取りたいと思います。今回、このような大変貴重な機会を与えてくださり、本当にありがとうございました。

近況報告バトンタッチ

『人生は出会い 半世紀を振り返る』

HC4 小屋原伊一郎

今から50年以上も前に遡る。奇しくも、北里大学衛生学部化学科西村民男教授の下で卒業研究を行った。当時、千葉大学薬学部の坂口武一教授の研究室と共同研究が進められていた。私は千葉大でその研究を行うことになり、それがご縁で、坂口教授と出会った。両教授とも故人となられたが、この出会いが、私の人生を大きく変える転換点となるのだが、知る由もなかった。

卒業が迫る頃、製薬会社の門を叩いたが、結果は全て「桜散る」だった。

将来の夢も希望も打ち砕かれていた時、小説『人間革命』と出会う。読むほどに生命力が湧き、勇気と希望を得た。正に、人生観を一変させる一書となった。

ある日、坂口教授の助手であられた田邊信三先生（後に明治薬科大学教授）に前途を相談。「千葉大の大学院を受けたらどうだ。為せば成る！」との激励を戴く。一瞬、無謀ではと躊躇したが、その日から約半年間、必死で研鑽し受験。努力は嘘をつかなかった。

大学院2年になった頃、坂口教授から帝国臓器製薬（現あすか製薬）の話を受く。就職が縁となり、妻（北里大薬学部薬学科第4期）と巡り合う。正に、天の配剤ともいべき一書との出会いや、多くの先生方や大勢の人たちとの出会いが、そして、妻との出会いが幸運を運んでくれた。

入社から四半世紀が過ぎた頃、第二の人生を模索。「一回限りの今世の人生を、悔いなく生きたい」との思いに駆られ、韓国や中国そして印度で日本語を必要とする人たちの役に立つ日本語教師になると決意した。

言うまでもなく仏教は、印度から中国、韓半島を経て伝播。日本人の精神性に多大な影響を及ぼしてきた。その文化大恩の国々との間には、悲惨な負の遺産がある。それらの問題について、若者たちがどのように見ているのかを肌で感じたかった。

2002年、NHKで日本語教師養成講座を受講し、31年間、製剤技術研究一筋の会社人生にピリオドを打った。

翌年、ソウル近郊の西江大学に語学留学し、米、露、中、スイスやベルー等の青年たちと韓国語を学ぶ傍ら、日本語教師としての第一歩を踏み出す。この両立は、止暇断眠の如き日々であったが、この挑戦のお陰で、「喜びは、苦悩の大木に実る果実である」との箴言を心の底から味わうことができ、生涯の宝となった。

語学留学は、刺激的でとても楽しかった。クラスに在日韓国人がいた。アイデンティティーを求め韓国語を学びに来たという。その青年と犬の肉料理を食べたり日韓の相違点について熱く語り合ったりしたことも、忘れ得ぬ思い出となった。

2006年、妻と中国へ旅行。図らずも、日本語教育に携わる中国人と出会う。それが機縁となり、2007年から約7年間、大連外国語大学で日本語会話と作文、聴解を担当した。一教科90分、一週10クラスの授業は過酷だったが、夢を見いだせずにいた学生が自らの可能性を信じ、懸命に勉強するようになったり日本への留学を勝ち取ったりする教え子の姿を見るたびに、過酷の二文字は消え教師冥利を実感。それが何よりも嬉しかった。

日本の文化を紹介する授業では、浮世絵や俳句、都都逸等を紹介。都都逸や艶歌は、何度も歌った。俳句では理論より実践を重視し、学内を吟行。学生たちの句を句集にして贈呈した。このように、虚栄を捨て、自在に授業をさせて頂けたのは、偏に常荷先生の深いご理解と強い支えのお陰であった。

2013年、印度を諦め帰国。次男と居酒屋『ねんごろ』を経営。銀行通いや孫の面倒をみたり韓国語を学んだり、近隣の人たちと交流を深めている。時折、教え子たちから連絡が届くと心が躍り、返信してはまた、何度も読み返す。

人生には様々な出会いがあり、決断がある。人生の師匠との出会いや、多くの先生方や人々との出会いが、私の人生を善なる方向へと導いて下さった。衷心より感謝申し上げ、これからも報恩感謝の心を忘れず、更なる人格向上を目指し精進していくことをお誓いし、次のバトンを衛生学部化学科5回生今井幸子（旧姓中野）さんに託します。



近況報告バトンタッチ

『母校との御縁』

HC30 中山 享子

私が衛生学部化学科を卒業したのが平成7年のこと。

その平成という御代も終わろうとしています。

私は華々しい活躍はしていませんし、海外へ出ることもありませんでした。両親や指導頂いた先生方から、大学を出る必要があったのかと叱られてしまいそうな生活を送っています。それでも筆をとるのは旧友からの誘いがあったのと、北里大学と御縁があったからです。

私は卒業後、卒業研究で御世話になっていた研究室に研究補助員として就職しました。

体調を崩して退職した後は介護の仕事を始めました。仕事をしながら介護福祉士の資格も取得しました。試験で医療分野が苦手だという人も多中、私が苦手だと感じることなく受験できたのは北里大学で学んできた事も無関係では無いと思います。私は衛生学部とはいえ化学科なので、医療について勉強してきたわけではありません。それでも部活や学園祭の実行委員会などで医療系の学友たちと接する機会はたくさんありました。覚えなければならない苦労はありましたが、苦手だという意識は全く持たずに済みました。介護の仕事は、認知症高齢者を小規模で支援するグループホーム、退院後の在宅復帰を支援する介護老人保健施設を経験し、今は終の棲家と言われる特別養護老人福祉施設に勤めています。

今の施設に勤め始めて1～2年たった頃、顔面に紅斑ができました。仕事のストレスからだろうと気にしていませんでしたが、一緒に働いていた看護師さんから病院へ一度行くように強く勧められました。施設の往診に来ていた皮膚科の先生の病院をしぶしぶ受診しました。すると膠原病の疑いが強いからと総合病院への紹介状を渡されました。検査の結果、全身性エリテマトーデスと診断されました。抗dsDNAIgGと抗核抗体が異常に高い値なので、すぐに専門医を受診するように言われました。その時、専門医は東海大学病院と北里大学病院にいるが、どちらへ行きますかと聞かれました。私の住まいからは東海大学病院の方が近かったのですが、迷わず北里大学病院を選びました。北里大学は私の母校であるという思いが強く沸いたのです。全身性エリテマトーデスが難病指定されている病気だと分かると、何でもないと顔をしながらも不安を抱えました。この先一生病院通いを続けることになる。これからどうなるのだろう。そんな不安を和らげてくれたのが母校でした。「定期的にまた母校へ通うのも悪くないか。」と思えたのです。久しぶりに訪れた母校は、在学中と変わったところもありましたが、とっても懐かしかったです。一緒にはしゃいだ学友たちの顔が次々と浮かびました。北里大学病院を受診すると、私の住んでいる市内の病院へ専門医（残念ながら北里大学病院の先生ではありません）が通いで行っているとのこと。そちらを受診していくようにしたらどうかと薦めてくれました。今は、その市内の病院で

治療を続けています。

母校の他に私を支えてくれたのが日産シルビアです。シルビアが流行っていた頃、私は車に全く何の興味も持っていませんでした。今でもシルビア好きなわけではありません。たまたま私の元に来ることになった車がシルビアであっただけのことです。車好きの人から話しかけられることがあります、困惑してしまいます。とは言え、乗っていてとても楽しいです。私の相棒です。相棒は、誰よりも私の様々な表情を知っています。御世話になっている車屋さんに集う仲間たちと、年数回富士スピードウェイの一角を借りて走っています。ドリフト走行をするつもりはありませんが、運転技術向上の為に円かきは教わっています。悲しいかな、未だに習得はできませんが、、、それでもトライし続けるのは、車の挙動を体で知ること、万が一の時の対処能力を維持・向上できると思うからです。

そんな合間を縫って日本の歴史を勉強しています。今は今上天皇の退位も間近なので、天皇に関する本も色々出版されています。長い長い歴史の中で日本における天皇の存在とはということを知ると、ものの見方が変わっていきます。私は日本人なのだという自覚を持つようになりました。私は外国で暮らしたことも仕事をしたこともありません。自国の歴史を、先人たちの思いを学ぶことで国内に居ながら、そういった自覚を持てることに驚いています。そして、この国を大切にしたいと思うようになりました。この国を守ってくれた先人たちに感謝の念が生まれると、日々接している先輩たちに対する眼差しも変わっていくのを感じます。とある番組で、介護の仕事が低く見られるのは、高齢者に対する見方が低いからだと言っているのを聞きました。納得です。

これからも御縁を大切に、好奇心を忘れずに過ごしていきたいと思います。

次は2級先輩の化学科卒、岡崎靖之さんにバトンタッチ。



近況報告バトンタッチ

『思考は実現する。開発者から医療ベンチャー創業へ』 SP11 小林 宣文

■ 物理学科のメンバーと統合失調症の解決を目指す RESVOを創業

今から4年前、私は株式会社RESVO（レスポ）という統合失調症をはじめとする精神疾患の治療から完治までを目指す医療ベンチャーを創業した。統合失調症というのは、妄想や妄言、幻聴などが生じる精神疾患だ。10代後半～20代の男女に発症しやすく、その多くが適切な治療を受けることができず苦しんでいる。

RESVOはこの問題を解決するため私と同じく物理学科を卒業し、国立放射線医学総合研究所にて研究者として活躍していた大西 新と2人で起業した。ビジネス面を私が、研究面は大西が担当する形で会社を運営している。

実は大西と私の物理学科在学期間は重なっていない。大西は私の5つ以上先輩に当たる。彼と初めて出会ったのは、私が学部を卒業してから数年が経過してからだ。

当時自動車メーカーで設計の仕事をしていた私が医学研究に打ち込む大西と出会えたのは、北里大学理学部名誉教授の前田 忠計先生、非線形物理学講座（現：量子物理学講座）時代に指導教官を務めてくれた守 真太郎先生（現：弘前大学理工学研究科 教授）のお陰である。

■ 北里祭に没頭した学生時代

このような話をすると「小林さんは、学部時代から起業家を目指していたのですか？」と質問をされるが、答えはNOだ。

私の学部時代は学祭実行員として、北里祭成功のための準備に明け暮れる毎日だった。大学の勉強もそこそこに、学祭の準備・運営に明け暮れていたのである。その頃、全く起業などは考えておらず、学祭にのみ注力していた。

今振り返れば、「『みんなで一つの目標に向かって成功のために頑張る』という学祭の運営経験」や「100人近い学祭実行員や大学事務の方たちとの関わり」がRESVOを運営する土台になっていると感じる。

■ 自動車開発の傍らで抱いていた精神患者への問題意識

北里卒業後は、東北大学大学院工学研究科にてナノメカニクスを専攻し、修士課程を終了する。卒業後はトヨタ自動車東日本にて自動車設計に従事していた。

日々会社員として仕事に取り組む私の中にはもう一つ別の思いがあった。それは「精神疾患に苦しむ当事者やその家族に何かサポートできないか？」だ。これは、私が大学院時代に仲の良かった友人が精神疾患を発症したことがきっかけである。特に働きはじめてから3年を経過したあたりで、その気持ちはますます強く

なっていた。

丁度そのタイミングで当時国研に勤めていた大西と出会い、彼が携わる精神疾患に関する研究内容をはじめ、「こうした研究成果を精神疾患で困っている患者さんやその家族に還元したい」という熱い思いを聞いたのだ。

このとき私の中で、「大西と一緒に『精神疾患で困っている人たち』のために何かしたい」と強く心が動かされたことを今でも覚えている。こうしたきっかけが後押しとなり、大西と一緒にRESVO創業をするに至った。

■ 終わりに

私と大西は「思考は実現する」という考えのもと、日々行動している。RESVO運営をはじめ、精神疾患の研究や事業には様々な困難が付きまとう。だが、自分たちがどのような形で世の中に貢献したいかを考えることは常に忘れないようにしている。

最後になるがRESVOが現在の形までに成長ができたのは、企業理念に賛同し、他社で働きながらも協力してくれる物理学科の後輩や大西の北里大学大学院の同級生などのメンバー、活動を支援してくれるベンチャーキャピタルや製薬会社といったパートナー企業の協力があるからに外ならない。

今後は彼らの協力を得ながらも、さらに応援してくれる人や企業を増やして、1日でも早く皆さまの元に商品を届けたい。ぜひ同窓会の皆さまにも私たちの成長を見守ってほしい。



RESVOメンバー

近況報告バトンタッチ

『企業弁理士として』

SB6 小野 澤亮

生物科学科7期生の小野澤亮と申します。先輩の石澤洋平さんよりバトンを受けましたので、近況報告をさせていただきます。

後発医薬品の原薬の輸入及び販売

私は弁理士試験に合格し、現在新日本薬業という、主に後発医薬品の原薬を輸入し、その原薬を後発医薬品の製薬会社に販売している商社に勤務しています。後発医薬品を販売するためには、先発医薬品会社や他者の特許の満了や回避を確認することが必要です。私は、社内でこの確認に係る重要な役割を担っています。特許の満了の場合、専用のwebサイトの検索によって確認可能ですが、回避の場合、輸入元から提供された製品の規格や製造方法の書面での確認が必要です。製造方法の詳細な条件の確認が必要な場合、秘密情報の提供となることを理由に、輸入元が書面による詳細な情報の提供を拒否することもあります。その場合でも、現地での製造設備や製造記録の開示は認められることがあるため、現地でこれらを確認し、特許回避について協議をすることもあります。

もし特許の確認が不十分で特許侵害となってしまった場合、特許権者から巨額の損害賠償を請求される恐れがあります。責任重大な仕事ですが、その分やりがいのある仕事です。

特許異議申し立てや特許無効審判

後発医薬品を販売するための手段は、特許の満了や回避だけではなくありません。特許の満了まで待てない場合や回避が困難な場合、一度登録となった特許の有効性を否定するための特許異議申し立てや特許無効審判は、有効な手段です。これらの手段を検討することも、業務の1つです。

特定侵害訴訟代理業務試験

弁理士は、単独で知的財産関連の侵害訴訟の代理人になれません。一定の研修を受講し、試験に合格すると、弁護士と共同で侵害訴訟の代理人になることができます。この試験が、特定侵害訴訟代理業務試験です。2016年、この試験に合格しました。

研修にて、民法、民事訴訟法、訴状や答弁書の書き方、侵害のあてはめ、損害賠償額の算定等を勉強しました。中でも、民法を勉強したことは、大きな収穫でした。民法には契約業務に必要な条文が規定されています。現在は特許の業務に加え、秘密保持契約や共同研究契約のような契約書の業務にも係わっております。研修や試験勉強で得た知識は、日常業務に役立っています。

日本弁理士会委員会活動

2015年度から2017年度まで、日本弁理士会の企業弁理士知財委員会に所属しました。委員会の活動によって、日常の社内業務では得られない情報を得られました。2017年度は副委員長に就任し、研修企画や組織の運

営に係りました。委員会活動を通して知り合った弁理士とは、今でも交流があります。

今後

会社からの支援の下、上記の業務や活動を進めております。以下、今後の展望です。

前記の特許の満了や回避による解決が困難な場合の手段の1つとして、特許実施契約の締結があります。契約も武器としたいと考えています。

特許は、企業や大学の研究開発の成果を保護するための制度です。従って、特許情報を分析することによって、企業や大学の研究開発活動の動向や戦略を把握することが可能となります。特許情報分析を基にした共同開発先、投資企業及び買収企業の選定、マーケティングや事業戦略の構築、最終的にはこれらを基にした経営戦略まで立案できる能力を身に着けることを、検討しています。

弁理士会には裁判の判例を研究し、その研究成果を知財学会や論文で発表している委員会があります。後学のために、このような活動をしている委員会に所属することを、検討しています。

私生活

私生活では、2017年に入籍しました。新婚旅行でハワイに行きました。当時キラウエア火山の活動が活発になっており、付近を観光することはできませんでしたが、それ以外にも見どころがあり、楽しめました。オアフ島のラニカイビーチは、まさに南国の海という感じでお勧めです。

次は生物科学科同期の河野剛さんにバトンを渡します。



同期会報告

衛生学部化学科6期生同期会を ベルマーレで開催

HC6 坂口 和子

去る11月8日に衛生学部化学科6期生の同期会を渋谷のベルマーレで開催しました。例年、同期会は例年白金本館の松実を利用していましたが、いよいよ白金キャンパスの再開発がはじまったため、会場を平成26年2月28日発行の理学部同窓会報第17号の広告にありました、化学科2期生、木津秀幸オーナーのベルマーレに移して開催しました。ここは渋谷駅からすぐの桜通りにあるトラットリアです。

今回も鹿児島や愛媛、京都、山形など遠方からの参加があり、久々の再会に話が弾み、時を忘れて和気藹々と実に楽しく過ごしました。もちろん、この年齢の会にはつきものの、孫や病気の話題が豊富だったことは言うまでもありません。

この同期会は、2020年の東京オリンピックまで毎年開催することになっておりますので、毎年同期の元気な顔を拝見できまることが嬉しいです、楽しみでもあります。ご都合で参加できなかったHC6の同期の皆さまには、次回のお出立を幹事一同、心から願っております。

最後に、美味しいお料理とお酒、そして素敵な場所とサービスを提供していただいたベルマーレの方々には感謝申し上げます。



2020年は1970年卒業50周年

HC5 中野 勝雄

2018年（平成30年）は西日本豪雨、40℃猛暑、北海道胆振地方地震等の自然災害が多く発生し、お見舞い申し上げます。

2018年の同期会は、1966年（昭和41年）に学んだ白金キャンパスは北里本館と薬学部校舎の建替が行われ、現代的な建物となった「北里柴三郎記念館」にある「北里白金サロン」で行われた。

北里柴三郎記念館は土曜休館日であったが、事前に薬学部事務長との折衝で特別に開館して頂いた。館内では、北里柴三郎が愛用していたカールツァイス製顕微鏡、江戸時代の顕微鏡などと共に2015年ノーベル生理学・医学賞を受賞した大村 智特別榮譽教授コーナーではイベルメクチンの分子模型図や河川盲目症で失明した大人を杖で導く子どもの像も見学した。記念館を見学した後、北里白金サロンに移り同期会を開催した。今回の参加者は22名で、4年間通い慣れた渋谷駅周辺の工事による

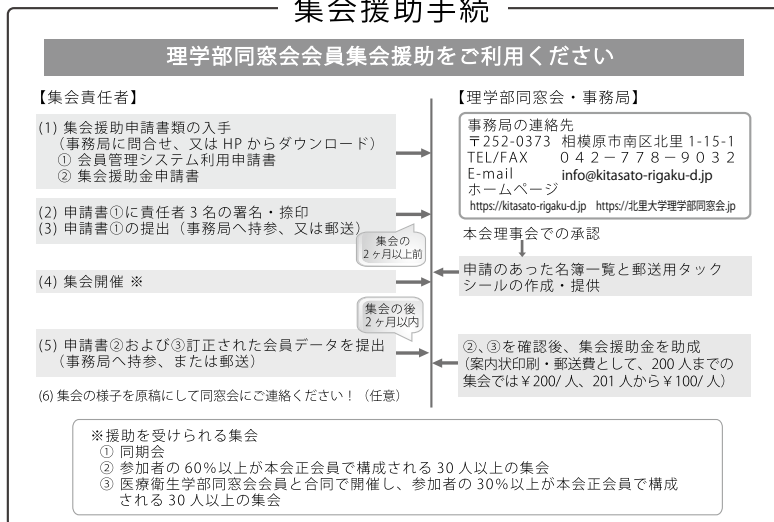


変貌とバスターミナルの移動で白金キャンパスに来るのに大変困った話をされた。また、入学した一時期、都電で渋谷から天現寺交差点先の光林寺まで乗車して、北里研究所の裏門から通学していた思い出話も出された。なお、2年進級時に衛生技術科や畜産学部へ転籍した友も出席された。

今回、岡山出身の方からホームメイドのアップルパイを送って頂き、大変美味しく頂きました。有り難う御座いました。

2020年は、1966年入学生の卒業50周年です。まだ開催場所等については未定ですが、是非時間の許す限り多くの参加者を望みます。

集会援助手続



【同期会や研究室の同窓会を開催予定の方へ】

理学部同窓会では、正会員が同期会や研究室の同窓会（以下、同期会等という）を開催される場合に、当該名簿リストやタックシールの提供、それに通信費用の援助を行う事業を行っています。

加えて、平成29年より同期会等の開催を本会ホームページに掲載するサービスを新たに開始しておりますので、是非本制度をご活用下さい。

詳しくは理学部同窓会のホームページ (<https://kitasato-rigaku-d.jp/>) をご覧下さい。

生体機能学研究室同窓会

SB3 玉村 良

2018年3月24日(土)に理学部生体機能学研究室同窓会を開催しました。本同窓会は、発起人であられる鈴木先生及び向山先生が年賀状などで現在も連絡を取っている卒業生にお声かけいただき、そこから周囲に広める形で開催し、当日は鈴木先生及び向山先生の他、1995年卒～2006年卒までの幅広い年代の卒業生、総勢27名が集まりました。

当日は、第一部：相模原キャンパス見学会、第二部：夕食懇親会(小田急ホテルセンチュリー相模大野にて)の二部構成でした。第一部では、学生食堂でのお茶会を拠点として、すっかり新しくなった大学の建物に驚きつつも、懐かしいキャンパスでの散策を楽しみました。第二部では、場所をホテル内の宴会場に越し懇親会を行いました。都合で片方だけ参加した者もありましたが、どちらの会も、同期をはじめ、研究室時代をとものに過ごした仲間や先生方との懐かしい思い出話に大いに盛り上がりました。多くのメンバーとは卒業以来初めての再会でしたが、あっという間に研究室時代に戻ったような錯覚を覚えました。大学などで研究を続けている者、教職員となった者、会社員となった者など、それぞれ進んだ道は異なりますが、各々それぞれの道で活躍していることを知り、大変心強く思い、また自分も生体機能学研究室出身者として頑張らなければ、と気持ちを新たにすることができました。さらに今回の同窓会では、



第一部

これまでお会いしたことのない先輩・後輩ともお話しをすることができ、大変貴重な機会となりました。なかでも個人的には、現在同じ会社で働いている後輩がいたことに非常に驚きました!

本同窓会では、2018年4月に77歳になられる鈴木先生の喜寿のお祝いも、ささやかながらさせていただきました。鈴木先生は77歳とはとても信じられない程お元気で、そのパワーに参加者一同圧倒されました。次回は傘寿をまた同窓会でお祝いしたいと思います!

今回、なかなか会うことができずにいた多くの仲間と再会することができましたが、残念ながら参加できなかったメンバーもありました。そのため、この研究室同窓会を単発で終わらせることなく、是非定期的に開催していきたいと考えております。今回は、企画、準備から当日の対応まで、そのほとんどを向山先生にリードしていただきましたが、次回は是非とも我々卒業生でリードをしていきたいと考えております。我こそは!と幹事を買って出てくださいる方、大募集です、小林君!!



第二部

物性物理学講座同窓会

SP7 大滝 正訓

2018年10月20日に物性物理学講座の同窓会をベストウェスティンレブランドホテル東京町田にて開催しました。これまでは、年度末に現役の卒研生の追コンと合同で行われていた研究室の同窓会ですが、今年度は時期をずらしての開催となりました。昨年度の研究室の同窓会は、菅原洋子教授の定年退職に伴い多くのOB・OGが集まりましたが、時期的に参加が難しい方も多く、時期をずらしての開催が求められました。このような経緯であったため、当初は参加人数が読めず不安な駆け出

してしたが、OB・OGの参加者は30名と例年に比べても多く、1期から21期までの広い世代が参加した会となりました(写真1)。また、菅原先生の退職後初の同窓会となったため、合わせて退職記念に研究室一同から記念品をお送りさせていただきました(写真2)。遠方からの参加者も多く、普段会えないOB・OGと旧交が温められたと思われます。最後になりますが、ご参加いただきました皆様、開催に協力いただきました皆様、集会援助を賜りました理学部同窓会に感謝申し上げます。



写真1



写真2

理学部事務室より

● 2019年オープンキャンパス 開催情報（未定）

日程は決まり次第ご連絡いたします。

各研究室、実験室を開放し様々な展示及び体験型実験教室を開催しております。是非お訪ねください。

● 2019年入試説明会

○入試説明会・在学生による相談会開催情報（未定）

日程は決まり次第ご連絡いたします。

各学科の教員や在学生による個別相談を実施します。授業内容や就職先など様々な質問にお答えします。

○入試説明会・入試直前対策講座開催情報（未定）

日程は決まり次第ご連絡いたします（北里祭も同時開催されます）。

理学部入試の過去問題、パンフレット等の頒布を行っております。詳細は北里大学ホームページ (<http://www.kitasato-u.ac.jp/>) をご覧ください。

● 教材の貸し出しを行っています

教員となられた卒業生の皆様に、ニワトリ胚標本、透明骨標本セットを教材として貸し出しています。教科書で教える動物発生よりも後の段階となりますが、肉眼で観察できますので、生徒の興味を惹く素材としてご利用いただけます。



詳細は下記（学生課）までお問い合わせください。

● ハーバード大学との国際交流

理学部では、8月にハーバード大学との国際交流プログラムがあります。このプログラムは2009年度から実施しており、国際的な視野を備えた研究者の育成を目指し、米国ハーバード大学の研究者と交流を深めています。

本プログラムは、派遣・招聘を隔年で実施しており、今年度は8月5日（日）～8月12日（日）に本学部から9名を派遣し、研究者とのミーティングや病院施設の見学などを行いました。また、マサチューセッツ工科大学やBroad研究所も見学し、最先端の研究環境を体験することができました。

● 求人情報をお寄せください

本学部の就職状況については、理学部同窓会のご支援もあり、毎年100%近い就職率を維持しておりますが、昨今の経済状況を鑑みると決して楽観出来る状況ではありません。学生たちは学業の傍ら、厳しい就職活動をくり抜けてはなりません。そこで、同窓会の皆様におかれましては、益々のご支援、ご協力を賜りたくよろしくお願い申し上げます。

求人票の学生への周知や、学内での企業説明会のご要望などを随時承っております。

● 理学部公式Twitter

理学部公式Twitterを開始しました。理学部の入試情報や、物理学科・化学科・生物科学科の最新情報・イベント情報などを発信していますので、ぜひご覧ください。



● 物理学科模擬授業

主に神奈川県、東京都の高等学校を対象に、5つのテーマをご用意し、出張模擬授業を実施しております。

詳しくは、北里大学理学部 物理学科スペシャルホームページ (<https://www.kitasato-u.ac.jp/sci/research/physics/>) をご参照ください。



お問い合わせ先

理学部入試に関すること

TEL 042 (778) 9172 (入試係直通)

FAX 042 (778) 9953

就職に関すること

TEL 042 (778) 8545 (学生課直通)

FAX 042 (778) 9953

大学院入試に関すること (理学研究科入試係直通)

TEL 042 (778) 9083

FAX 042 (778) 9953

2020年度 理学部入学試験日程（予定）

2020年度（2019年度実施）入学試験日程（予定）は以下のとおりとなっています。

理学部では、生命科学の基礎分野で研究力を身につけた人材を社会に送り出すことを使命とし、充実した教育・研究を実施しています。これらの使命をさらに発展させていくため、

北里大学理学部の志を受け継いだ同窓生のご子弟の方々の入学をお待ちしております。

（※下記日程等に変更がある場合がございますので、ご了承ください。）

公募制推薦	募集人員	物理学科 4名 化学科 10名 生物科学科 13名		
	試験日	2019年11月24日(日)	試験場	相模原キャンパス
	受付期間	2019年11月1日(金)～2019年11月14日(木)		
	合格発表日時	2019年11月29日(金) 11時 Web出願システムのマイページ		
指定校推薦	募集人員	生物科学科 7名 化学科 5名		
	試験日	2019年11月24日(日)	試験場	相模原キャンパス
	受付期間	2019年11月1日(金)～2019年11月14日(木)		
	合格発表日時	2019年11月29日(金) 11時 Web出願システムのマイページ		
一 般	募集人員	物理学科 24名 化学科 50名 生物科学科 38名		
	試験日	2020年2月3日(月)	試験場(3会場)	相模原キャンパス 大阪会場・仙台会場
	受付期間	2019年12月17日(火)～2020年1月20日(月)		
	合格発表日時	2020年2月12日(水) 11時 Web出願システムのマイページ		
センター試験利用(前期)	募集人員	物理学科 12名 化学科 10名 生物科学科 17名		
	試験日	2020年1月18日(土)・19日(日)(大学入試センター試験)		
	受付期間	2019年12月17日(火)～2020年1月17日(金)		
	合格発表日時	2020年2月12日(水) 11時 Web出願システムのマイページ		
センター試験利用(中期)	募集人員	物理学科 10名		
	試験日	2020年1月18日(土)・19日(日)(大学入試センター試験)		
	合格発表日時	2019年12月17日(火)～2020年2月3日(月)		
センター試験利用(後期)	募集人員	物理学科 3名 化学科 5名 生物科学科 5名		
	試験日 (本学部の課す個別試験)	2020年3月2日(月)	試験場	相模原キャンパス
	受付期間	2020年2月12日(水)～2020年2月19日(水)		
	合格発表日時	2020年3月5日(木) 11時 Web出願システムのマイページ		

【就職情報・求人票ご提供のお願い】

北里大学就職センターでは、各企業・機関から受領した貴重な求人情報は、「進路支援システム」（本大学学生用就職情報公開サイト）に一括掲載し、全キャンパスの学生がWebで閲覧できるシステムになっています。

同窓会の皆様からも是非、後輩のために求人情報等を就職センターにご提供ください。手続きにつきましては、本学ホームページ「資格・就職」から「求人受付NAVI」（企業登録手続きがあります）を通じて入力できますし、ご郵送・FAX・E-mailでも受付けております。

卒業後に転職・就職を希望している方も「進路支援システム」がご利用できます。ご利用頂く場合には、ID・パスワードが必要となりますので、就職センターまでご連絡ください。

【北里大学 就職センター】 TEL 042-778-9745
E-mail syusyoku@kitasato-u.ac.jp

同窓会からのお知らせとお願い

平素は同窓会活動にご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。以下の点につきまして、会員の皆さまにお知らせとお願いがございます。今後とも、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

「理学部パンフレット同封について」

2008年第11号の会報発送より、北里大学理学部パンフレットを毎年1,000名の方々に同封しております。現在の北里大学理学部の様子がわかる他、ご子息・ご息女やお知り合いの方々に北里大学理学部をご紹介いただければ幸いです。

「同窓会へのメールについて」

近年、迷惑メールが増加しております。その判別のために、会員の皆さまが本会にメールされる場合は、「件名」欄に以下の事項をご記載下さいますようお願い申し上げます。

＜卒業年または卒業期、卒業学科、氏名＞

記載例：1971年化学科卒業 理学太郎 または
6HC 理学太郎

「会報への寄稿について」

同窓会会報は年に1度の同窓生との交流の場です。皆さまの近況報告や同期会のお知らせ、大学時代の思い出などをお気軽に寄稿下さい。同時に、会報へのご意見もお寄せいただければと思います。

理学部への寄贈品について



本会から理学部へ、図書32冊を寄贈致しました。

編集後記

理学部同窓会会員の皆様こんにちは、化学科3期生の中野章代（旧姓鈴木）です。同窓会報第22号が完成しましたのでお届けいたします。ご寄稿いただきました方々に、この場をお借りして御礼申し上げます。昨年よりホームページのQRコード（下記左）と理学部同窓会のTwitterのQRコード（下記右）を作成し、本会事業などの詳細を随時掲載していますのでぜひご利用ください。同窓会へのご意見ご感想がありましたら是非事務局までお寄せ下さい。

本年2019年は、理学部創立25周年を迎えます。節目にあたり色々行事も控えておりますが遠方にお住まいでなかなか関東までお越しになれない皆様も、久しぶりに北里大学で過ごした大学生活を思い出してみてください。この会報を見て思い出した懐かしい気分が、仕事や家事、育児などの忙しい時間のちょっとした癒やしになりましたら幸いです。



北里大学理学部同窓会報

発行 2019年1月31日
発行者 北里大学理学部同窓会
〒252-0373 神奈川県相模原市南区北里1-15-1
北里大学理学部内 TEL/FAX 042-778-9032
E-mail : info@kitasato-rigaku-d.jp
責任者 沼上清彦